

『熱いぜ！肝臓』

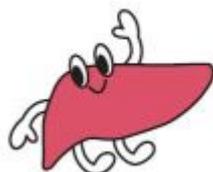
肝臓川柳 『カルニチン 適応拡大 お手軽に(チ)』



お手軽・・・オテガル・・・オテガルニチ・・・カルニチン
.....ノノノノノ

大雪、低温注意報が出される寒い日が続いていますが、
 寒くても毎日毎日熱い働きをしているのが肝臓です。
 生体内臓器の中で、肝臓は、細胞内の器官の一つであるエネルギーを作り出す
 ミトコンドリアが最もたくさん存在します。
 (ミトコンドリア：映画パラサイト・イブなどで聞いたことがある方もいるでしょう)
 食事で摂った栄養はさまざまに代謝された後、
 ミトコンドリアに入りその中で ATP というエネルギーの通貨を産生します。
 逆にこの ATP を最も多く消費している臓器も肝臓です。
 すなわち肝臓はエネルギーを最も多く作り、最も多く使っています。
 『沈黙の臓器』と言われており冷たいイメージがありますが、
 実際は大変忙しい“熱い”臓器です。

ミトコンドリアの機能にカルニチン（筋肉の話のところで一度少し出しましたが）
 という蛋白質が重要な働きをしますが、最近製剤化されているカルニチン剤の
 保険適応範囲が広くなり、処方し易くなりました。
 カルニチンは肝臓疾患の様々な分野での有用性が報告されています。
 (例えば、肝性脳症、脂肪肝、C型肝炎治療の補助として)
 詳細は次回に ～ See you next topics ～



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

生体内臓器の中で、肝臓はミトコンドリアが最もたくさん存在します。
 肝臓はエネルギーを最も多く作り、最も多く使っています。
 最近製剤化されているカルニチン剤の保険適応範囲が広くなり処方し易くなりました。
 カルニチンは肝臓疾患の様々な分野での有用性が報告されています。

(文： 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)